

2012年4月6日

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

ベルリンフィル12人のチェリストたち に特別協賛します Die 12 Cellisten der Berliner Philharmoniker

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社（本社：東京都中央区、社長：樋口幸男）は、2012年7月に開催される「ベルリンフィル12人のチェリストたち」に特別協賛します。1990年以降、2年に一度、単独による日本公演が開催されており、当社の協賛は今回で4回目となります。

「ベルリンフィル12人のチェリストたち」は、世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のチェロ・セクションのメンバーから構成される、ユニークかつ贅沢な室内楽グループです。オリジナリティ溢れる重厚なる響きで世界の人々を魅了しています。

今回の公演は、「12人」の結成40周年、そして当社の開業10周年の記念公演となります。

当社は、今後も文化活動への取組みを積極的に推進することで、文化的で豊かな社会作りに貢献してまいります。



前回の東京公演の様（2010年7月4日（日） サントリーホール）

<本件に関するお問い合わせ先>

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

企画・総務部 広報担当 電話 03-3279-9001

2012年東京公演概要

公演名：三井住友海上プライマリー生命 ～開業10周年記念～
ベルリンフィル12人のチェリストたち
結成40周年記念公演



日時：2012年7月1日（日）午後2時開演

会場：サントリーホール（赤坂）

主催：日本経済新聞社

特別協賛：三井住友海上プライマリー生命

後援：ドイツ連邦共和国大使館、東京ドイツ文化センター

企画：NOAH

入場料：S席9,000円、A席8,000円、B席7,000円、C席6,000円（全指定席）

前売開始：2012年3月24日（土）から 主要プレイガイドで一斉発売

出演者：ベルリンフィル12人のチェリストたち

プログラム：◆Part 1. “40年 — 40 Jahre”

ジュゼッペ・ヴェルディ	《聖歌四篇》より	アヴェ・マリア
ダヴィッド・フンク	組曲 ニ長調 より	序奏—アルマンド—クーラント—アリア—ジグ
ボリス・ブラッヒャー	12の独奏チェロのための	ブルース、エスパニョーラ、ルンバ・フィロ
	ハーモニカ	
エイトル・ヴィラ＝ロボス	ブラジル風バッハ第1番 より	前奏曲と序奏

◆Part 2. “キャラヴァン — Caravan”

ユリウス・クレンゲル	12のチェロのための《讃歌》作品57
ジャン・フランセー	《朝のセレナーデ》より
W. カイザー＝リンデマン	‘12人’のためのボサ・ノヴァ (ブラジル風変奏曲)
ザ・ビートルズ (J. レノン、P. マッカートニー / 三枝成彰 編)	ミッシェル
エンニオ・モリコーネ	ザ・マン・ウィズ・ザ・ハーモニカ —映画『ウエスタン』より
グレン・ミラー	ムーンライト・セレナーデ
D. エリントン、J. ティゾール	キャラヴァン

(曲目は一部変更となる場合があります)

プロフィール

世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のチェロ・セクション全員で構成されるアンサンブル。結成以来、四半世紀を越えて国際舞台上で例外なしの成功を重ねています。

「12人」は、1966年のベルリンフィル日本公演旅行中、チェロカルテットがNHKなどで演奏したのがきっかけとなり活動を開始、72年オーストリア放送協会の依頼により、ザルツブルクでクレンゲルの《讃歌》を演奏した際、「ベルリンフィル12人のチェリストたち」を名乗り、正式に誕生しました。

「12人」の完全プログラムによる最初の公演はヨーロッパではなく、日本の早稲田大学大隈講堂で73年10月26日に行なわれました。この年、彼らのために作曲された最初のオリジナル作品であるボリス・ブラッヒャーの《ブルース、エスパニョーラ、ルンバ・フィルハーモニカ》は、ここで初演され、世界に羽ばたいていったのです。

「12人」は音楽外交使節としても大きく貢献してきました。ワイツゼッカー西ドイツ大統領（当時）の公式訪問に幾度か同行したほか、当時の東ドイツに招待された最初の西ベルリンの楽団でもあり、ドイツ統一や世界平和のために果たしてきた役割も計りしれません。ベルリンの壁崩壊直後の90年、三枝成彰はこれにちなんで《自由への頌歌》を作曲しました。

96年には神戸において阪神淡路大震災チャリティコンサートを行なうなど、「12人」は日本とドイツとの親善大使としても大きな役割を果たしています。

92年、BMGファンハウスからリリースされた「12人」の演奏による三枝成彰編曲のCD〈悲しみのビートルズ〉、続く94年リリースの《荒城の月》などが含まれた〈泣きたいだけ泣いてごらん... 日本の歌〉はヒット作となっています。

2000年より新たなCDシリーズの録音がEMIによってスタートし、第1弾〈South American Getaway（邦題：ブラジル風パッサ）〉は、権威あるドイツの“エコー・クラシック”受賞作品となり、02年第2弾〈'Round Midnight（邦題：ムーンライト・セレナーデ）〉が続けて大ヒットとなっています。04年には映画音楽を集めた第3弾〈As Time Goes By...（邦題：時の過ぎるまま）〉がリリースされ、このアルバムはふたたび“エコー・クラシック”受賞の栄冠に輝きました。第4弾〈Angel Dances（邦題：天使のミロンガ）〉は2007年グラミー賞（最優秀室内楽演奏部門）ノミネート5作品のうちのひとつとなる名誉を得ております。

ベルリンフィルの故カラヤンからアバド、そしてラトルへという時代の移り変わりの中にあって、世代交代を経験しながらさらに磨きがかかり、光り輝き続ける「ベルリンフィル12人のチェリストたち」。ますます注目と期待が寄せられる中で予定されている2012年7月来日公演は、結成40周年記念公演として、皆様の心に永く残るコンサートとなることでしょう。